

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2026年度
授業科目名	病理学総論		担当教員	石井 映幸	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年後期
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（医師）：32年	
授業概要					
<p>正常な人間の構造と機能を理解した上で、病気の原因・発生機序・病態について学ぶ。総論として、細胞・組織の障害と修復循環障害、炎症と免疫、移植と再生医療、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍ならびに器官系統別の疾患を各論として学習する。</p>					
到達目標					
<p>1. 病気の原因・発生機序・病態について説明することができる。  2. 症候論から見た病態を説明することができる。</p>					
回数	単元	内容			
1	病理学とは	病気の成り立ち			
2	循環障害	体循環と肺循環 浮腫の原因 門脈循環			
3	循環障害	血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血			
4	循環障害	チアノーゼ、ショックの分類、DIC			
5	炎症	炎症の徴候、発症機序			
6	炎症	アレルギーの分類			
7	免疫疾患	免疫システムについて			
8	免疫疾患	膠原病について			
9	代謝異常	脂質異常症、肥満			
10	代謝異常	糖代謝異常、動脈硬化症、痛風			
11	先天異常	先天異常と遺伝子異常			
12	先天異常	胎児異常、遺伝子異常、染色体異常			
13	腫瘍	腫瘍の発生			
14	腫瘍	良性と悪性、ステージ分類			
15	評価	客観テスト・解説			
評価	客観テストによる評価 100%				
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院）				
参考図書など	疾病のなりたち（医学書院）				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2026年度
授業科目名	基礎看護学方法論 I		担当教員	相川 玲子	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	1年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院等勤務（看護師16年）	
授業概要					
<p>看護にとって技術は実践活動に必要不可欠であり、身につけなければならないものである。しかし、単に技術の習得に終わらせるのではなく、技術の持つ意味や学的根拠を探りながら、看護技術の本質や看護技術の要素と構造、看護技術の遂行に求められる能力等について学修する。また、修得過程においては自ら学ぶ姿勢をもち看護技術を探求していく。</p>					
到達目標					
<p>1. 看護技術の持つ意味を考えることができる。  2. 看護実践のための看護技術の特徴と構造について説明できる。  3. 看護技術を探求する必要性を表現できる。</p>					
回数	単元	内容			
1	看護技術とは何か	1) 看護ケアとは      2) 看護ケアの構成要素    3) 看護技術とは 4) 手を用いた看護技術    5) 看護観			
2	看護の専門性と看護技術（1）	1) 専門職としての看護技術提供      2) 安全・安楽 3) 技能と技術			
3	看護の専門性と看護技術（2）	1) 看護技術の原理原則      2) 看護の中の法則性 * 演習を通しての考察			
4	看護の専門性と看護技術（3）	1) 看護技術の原理原則      2) 看護の中の法則性 * 演習を通しての考察			
5	看護技術遂行能力（1）	1) 観察      2) 関係性の形成			
6	看護技術遂行能力（2）	看護ケア提供にあたっての看護師と患者の信頼関係			
7	看護における倫理	1) 看護技術提供における「尊厳」の保持 2) 看護の中のプライバシーの保護とインフォームドコンセント			
8	評価	客観テスト			
評価	客観テストによる評価80%、課題20%				
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 基礎看護学②（医学書院） フロレンス・ナイチンゲール 看護覚え書き-看護であること看護でないこと-（現代社） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2026年度
授業科目名	基礎看護学方法論VI		担当教員	鎌倉恵美子（1～6）橋田まゆみ（7～14）	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		鎌倉（実務経験：有、病院勤務（看護師）37年） 橋田（実務経験：有、病院勤務（看護師）10年）	

授業概要

食事・排泄は人間の基本的欲求の1つであり、対象の生命活動に影響を与える。講義と演習を通して「食」の持つ意味、なぜ看護師が食行動、排泄行動の支援・援助を行うのかを考え、対象に安全で安楽な食と排泄の支援・援助のために知識を身に付け、倫理的配慮に基づいた援助技術を修得する。また、食のメカニズムと排泄のメカニズムを理解する。

到達目標

1. 食事・栄養摂取および食欲の仕組みについて説明することができる。
2. 栄養状態および摂取能力のアセスメントの視点を説明することができる。
3. 摂取能力に応じた食事の援助技術を実施することができる。
4. 非系統的栄養摂取の援助（経鼻経管整容法）の具体的な方法を説明できる。
5. 排泄の仕組み・アセスメントの視点を説明することができる。
6. 基本的な排泄援助技術を実施することができる。（便器、尿器、）
7. 対象の排泄能力に応じて援助技術を実施することができる。（導尿、浣腸、摘便含む）

回数	単元	内容
1	食事・栄養摂取の仕組み	1) 栄養摂取の仕組みと反射 2) 栄養状態、摂食能力のアセスメント
2	食欲の仕組み	1) 食欲と食欲の仕組み 2) 食に影響を与える因子
3	食事の援助技術	1) セルフケア能力に合った食事方法の選択 2) 食事の種類と形態 3) 環境整備
4	食事介助	【演習】
5		1) ベッドの傾斜と体位、食べやすさの関連 2) 安全・安楽・自立を考えた食事介助の実際
6	非経口栄養法	1) 非経口栄養法（経腸栄養法、末梢静脈栄養法、中心静脈栄養法） 【演習】 モデル人形を用いた経鼻胃管の挿入
7	排泄のしくみ	1) 排泄のしくみと排泄行動の基本 2) 排泄状況、排泄能力のアセスメント（排尿、排便） 3) 心理・社会的状態のアセスメント
8	排泄を促す援助技術 排泄障害時の援助技術	1) 排尿・排便を促す基本技術 2) 排泄障害時の援助
9	自然排泄援助技術の実際	【演習】
10		床上での排尿・排便の援助（尿器・便器を用いた排泄援助） 模擬患者に排尿・排便の援助を実践する。
11	排便を促す援助技術	【演習】
12		排便困難時の援助 グリセリン浣腸、摘便 モデル人形を使用し肛門・直腸の構造を踏まえて実践する。
13	排尿障害時の援助技術	【演習】
14		導尿（一時的・持続的） 基本的な導尿の方法、無菌操作 モデル人形を使用し外陰部・尿道・膀胱の構造を踏まえて実践する。
15	評価	客観テスト・解説

評価	【食事】 客観テストによる評価30% 【排泄】 客観テストによる評価40%	課題レポート10% 課題レポート20%
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版（医学書院） 看護が見えるVol① ② 基礎看護技術 第1版（MEDIC MEDIA）	
参考図書など	適宜紹介する	

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2027年度
授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅲ		担当教員	川北 千鶴	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		有、病院・訪問看護勤務(看護師 20年)	
授業概要					
<p>在宅看護の特徴として、疾患中心とした問題解決ではなく対象の生き方や望みを把握し、生活を重視した目標達成志向での看護過程であることを学修する。また、療養者、家族の思いや生きがい、大切にしたいことを中心に家族の介護力、家族の心身の健康状態、生活環境、経済状況と社会資源の活用状況におけるアセスメントをすることによって全体像を捉え、対象の生活への影響、今後の予測について学修する。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護過程では、医療と生活の側面を目的としていることを説明することができる。</li> <li>2. 事例を通し、対象の疾患と制度・社会資源を説明することができる。</li> <li>3. 在宅看護過程の構成要素とその特徴について説明することができる。</li> <li>4. 国際生活機能分類（ICF）、ストレングスモデルの活用とその必要性について説明できる。</li> <li>5. 在宅看護のアセスメントの視点を説明することができる。</li> <li>6. 対象の強みを活かし、生活を維持できる計画立案の必要性を説明することができる。</li> <li>7. ケアの継続性の視点から評価・修正の必要性を説明することができる。</li> </ol>					
回数	単元	内容			
1	第1章 在宅看護過程の展開	在宅看護の展開方法①在宅看護の特徴②情報収集とアセスメント 目標の設定・計画④実施と評価			
2	第2章 在宅看護の事例展開(1)	療養者に対する在宅看護の事例展開①疾患理解②事例紹介③情報の整理			
3	第3章 在宅看護の事例展開(2)	国際生活機能分類（ICF）、ストレングスモデルを用いて対象の強みを考える			
4	第4章 在宅看護の事例展開(3)	事例展開 アセスメント(身体的側面)(精神的側面) ICF疾患関連図			
5	第5章 在宅看護の事例展開(4)	事例展開 アセスメント(環境・生活の側面)(家族・介護状況の側面)			
6	第6章 在宅看護の事例展開(5)	事例展開 制度、社会資源の理解(エコマップの作成)			
7	第7章 在宅看護の事例展開(6)	事例展開 支援計画の立案 まとめ 「到達目標」達成状況の確認			
8	評価	客観テスト・解説			
評価	客観テストによる評価50% 提出物50%				
教科書	系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践(医学書院) ナーシング・グラフィカ地域 在宅看護論 ①地域療養を支えるケア(メディカ出版) リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術(医学書院)				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2027年度
授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ (リハビリテーション看護論)		担当教員	田中貴代子(2~8) 内記 千亜紀(1、9~14)	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		田中：実務経験：有、看護師：28年 内記：有 病院看護師・訪問看護師・地域包括看護師：21年	

授業概要

健康障害の回復過程にあり、リハビリテーションを必要とする対象とその家族への看護を学修する。リハビリテーションを必要とする対象の理解、リハビリテーションチームにおける看護の役割を理解する。健康障害、回復段階の特性を踏まえたリハビリテーション看護の具体性について講義、演習を通して学ぶ。また、健康問題から生じる生活機能に焦点を当て、生活の再構築のために必要な援助や援助方法を学修する。

到達目標

1. リハビリテーション看護の概要を説明することができる。
2. リハビリテーション看護の対象と看護過程の特徴を説明することができる。
3. 障害をもつ人の機能評価や支援技術について説明することができる。
4. 脳血管障害のある対象のリハビリテーション看護の原則を説明することができる。
5. 摂食・嚥下機能障害のある対象のリハビリテーション看護の原則を説明することができる。
6. 排泄機能障害のある対象のリハビリテーション看護の原則を説明することができる。
7. 高次脳機能障害のある対象のリハビリテーション看護の原則を述べるすることができる。
8. 脊髄損傷の対象のリハビリテーション看護の原則を述べるすることができる。
9. 呼吸機能障害のある対象のリハビリテーション看護の原則を説明することができる。
10. 循環機能障害のある対象のリハビリテーション看護の原則を説明することができる。

回数	単元	内容
1	リハビリテーション看護総論 リハビリテーション看護の対象	リハビリテーション看護の概要 リハビリテーションを必要とする対象の理解
2	障害を持つ人の機能評価と支援技術	機能障害のアセスメント・ADL評価（FIM・BI） セルフケア支援
3	脳血管障害のある対象へのリハビリテーション看護	脳血管障害のある対象の回復段階に応じたリハビリテーション看護 ・急性期
4	脳血管障害のある対象へのリハビリテーション看護	脳血管障害のある対象の回復段階に応じたリハビリテーション看護 ・回復期、生活期
5	脳血管障害のある対象へのリハビリテーション看護	運動障害のある対象のリハビリテーション看護 感覚障害のある対象のリハビリテーション看護
6	高次脳機能障害のある対象のリハビリテーション看護	高次脳機能障害（注意障害・失認症・失語症・失行症・記憶障害）のある患者の看護
7	摂食・嚥下機能障害のある対象のリハビリテーション看護	摂食・嚥下障害 嚥下機能の評価
8	摂食・嚥下機能障害のある対象のリハビリテーション看護	摂食・嚥下機能のある対象のリハビリテーション看護（演習）
9	排泄機能障害のある対象へのリハビリテーション看護	排尿障害のある対象のリハビリテーション看護
10	排泄機能障害のある対象へのリハビリテーション看護	排便障害のある対象のリハビリテーション看護
11	脊髄に障害のある対象へのリハビリテーション看護	脊髄に障害のある対象の回復段階に応じたリハビリテーション看護
12	呼吸機能障害のある対象へのリハビリテーション看護	呼吸の障害がもたらす日常生活への影響 呼吸に障害のある対象のリハビリテーション看護
13	循環機能障害のある対象へのリハビリテーション看護	循環の障害がもたらす日常生活への影響 循環に障害のある対象のリハビリテーション看護
14	退院支援	障害を持ちながら生活する対象の地域参加 社会資源の活用
15	評価	客観テスト・解説

評価	客観テストによる評価 100%
教科書	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 新体系 看護学全書 人体の構造と機能③ 形態機能学 メチカルフレンド社
参考図書など	授業内容に関連するテキストを適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2026年度
授業科目名	老年看護学概論		担当教員	小泉由香里	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）9年	
授業概要					
<p>老年看護の対象である老年期を生きる高齢者の身体的・精神的・社会的・Spiritualの特徴をとらえ、高齢者とその家族の生活像を知り、老年看護の対象理解を促進し看護の役割を学修する。また、高齢者の置かれている現状と社会保障を知り、高齢者の生活機能を整える看護を考えられるように学修する。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「加齢」「老化」「老年期」「高齢者」「生活機能」の概念を説明することができる。</li> <li>2. 高齢者の統計的特徴をふまえ、身体的・精神的・社会的・Spiritualの特徴について説明することができる。</li> <li>3. 高齢者疑似体験を通して、高齢者の日常生活活動について考察することができる。</li> <li>4. 高齢者と家族の暮らしについて、社会の変遷をふまえ、その特徴を説明することができる。</li> <li>5. 高齢者の生活・療養の場における看護の役割について表現することができる。</li> </ol>					
回数	単元	内容			
1	第1章 老いるということ、老いを生きるということ (1)	1. 授業ガイダンス 2. 老年看護を学ぶ入口 「老いる」ということ			
2	第2章 老いるということ、老いを生きるということ (2)	1. 老いを生きるということ			
3	第3章 超高齢社会と社会保障 (1)	1. 超高齢社会の統計的輪郭 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 3. 高齢者の権利擁護			
4	第4章 超高齢社会と社会保障 (2)	1. 超高齢社会の統計的輪郭 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 3. 高齢者の権利擁護			
5	第5章 超高齢社会と社会保障 (3)	1. 老年看護の役割 2. 老年看護に携わる責務			
6	第6章 老年看護のなりたち (1)	1. 老年看護における理論の活用：講義			
7	第7章 老年看護のなりたち (2)	1. 老年看護における理論の活用 (ICF)：演習 演習後課題レポート			
8	第8章 ヘルスアセスメント (1)	1. ヘルスアセスメントの基本			
9	第9章 ヘルスアセスメント (2)	1. 身体に加齢変化とアセスメント 皮膚系、視聴覚系、循環器系			
10	第10章 ヘルスアセスメント (3)	1. 身体に加齢変化とアセスメント 呼吸器系、消化器系、ホルモン系、運動系など			
11	第11章 高齢者疑似体験	1. 高齢者疑似体験演習：高齢者疑似体験の装着 演習後課題レポート			
12	第12章 エンドオブライフケア	1. 高齢者におけるエンドオブライフケア・生への支援 2. 意思決定支援・アドバンスケアプランニング			
13	第13章 生活・療養の場における看護 (1)	1. 高齢者とヘルスプロモーション 2. 保健医療福祉施設・居住施設			
14	第14章 生活・療養の場における看護 (2)	1. 高齢者とヘルスプロモーション 2. 保健医療福祉施設・居住施設 多職種連携実践等			
15	評価	客観テスト・解説			
評価	客観テストによる評価90% 課題レポート10%				
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学【第10版】(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論【第6版】(医学書院) 国民衛生の動向【2026/2027】(厚生労働系統協会)				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2026年度
授業科目名	小児看護学概論		担当教員	村上 ヒトミ (1、13~14) 石井 淳子 (2~12)	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		村上 実務経験：有・病院勤務（看護師）13年 石井 実務経験：有・病院勤務（看護師）17年	

授業概要

子どもと家族を取り巻く環境とその変化について学び、小児看護の理念と特徴について学修する。子どもの成長・発達に影響する因子、成長・発達の評価、発達段階各期の形態的、生理的、知的、情緒的特徴等について学修し、小児看護の対象である子どもと家族の理解を深め、小児看護の概念と役割について学修する。また、子どもを取り巻く社会と、子どもや家族への適切な支援の概要を学修する。

到達目標

1. 小児看護における理念および特徴について表現することができる。
2. 子どもの成長・発達に影響する因子をふまえて成長・発達の進み方を説明することができる。
3. 小児および家族への支援について表現することができる。
4. 小児および家族の必要な法律および支援について表現することができる。

回数	単元	内容
1	第1章 小児看護の理念と特徴	①小児看護の目指すところ ②小児看護の諸統計 ③小児看護の変遷 ④小児看護における倫理 ⑤小児看護の課題
2	第2章 子どもの成長・発達	①成長・発達とは ②成長・発達の進み方 ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価
3	第3章 新生児	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③各機能の発達 ④養育および看護
4	第3章 乳児 (1)	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護
5	第3章 乳児 (2)	
6	第4章 幼児 (1)	
7	第4章 幼児 (2)	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護
8	第4章 幼児 (3)	
9	第4章 学童 (1)	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒的機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧養育および看護
10	第4章 学童 (2)	
11	第5章 思春期・青年期 (1)	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③知的・情緒 (心理) 的・社会的機能 ④生活の特徴 ⑤心理・社会的適応に関する問題 ⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題 ⑧反社会的・逸脱行動 ⑨事故・外傷 ⑩思春期の看護
12	第5章 思春期・青年期 (2)	
13	第6章 家族の特徴とアセスメント	①子どもにとっての家族とは ②家族アセスメント
14	第7章 子どもと家族を取り巻く社会	①児童福祉 ②母子保健 ③医療費の支援 ④予防接種 ⑤学校保健 ⑥食育 ⑦特別支援教育 ⑧臓器移植
15	評価	客観テスト・解説

評価	客観テストによる評価100%
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論【第14版】(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 看護学[2]小児臨床看護各論【14版】(医学書院) 看護実践のための人間発達学(医学書院)
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2027年度
授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ		担当教員	水原 幸子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		水原（有・病院勤務（助産師）19年）	

授業概要

妊娠・分娩・産褥は正常な経過である。しかし、これらの時期は身体的・心理的・社会的にも大きな変化があり、役割も変化するため適応が必要とされる時期である。つまり正常な経過ながらその変化は大きく、そのため正常を逸脱し、異常に傾きやすく不安的な時期である。母性各期の異常を学習することで女性生殖器にかかわる疾患及び妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の異常な経過を理解し、各期の看護を学修する。また、母性看護に必要な知識・技術を習得することで看護実践へとつながるように学修する。

到達目標

- 1) セクシュアリティの観点から性を理解し、女性生殖器特有の疾患・看護を述べることができる。
- 2) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の正常な経過を説明することができる。
- 3) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常な経過を理解することができる。
- 4) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常な経過から各期の看護を理解することが出来る。
- 5) 母性看護学で学習した知識を活用し、母性看護技術を安全に留意し模擬患者で実施することが出来る。
- 6) 母子のつながりを意識し、母児への看護の必要性を考えることができる。
- 7) 生命倫理について母児のつながりを意識しながら自己の考えを深めることができる。

回数	単元	内容
1	性・生殖機能障害のある患者の理解	①女性の身体面、精神面、社会面の発達段階と生殖器疾患患者の理解 ②女性生殖器疾患患者の看護の特徴の理解
2	女性生殖器疾患を持つ人々やその家族への看護を考える	①女性生殖器疾患の理解 ②女性生殖器疾患に特有の検査、治療、看護 ③感染症、異所性妊娠 ④セクシュアリティからの観点
3	外生殖器・内生殖器の手術を受ける患者の看護	①乳房切除術 ②子宮摘出術 ③術後合併症とその予防 ④ボディイメージの変化に伴う心理過程と看護
4	妊娠期の異常(1)	①妊娠の生理の理解 ②ハイリスク妊娠の理解 ③正常からの逸脱、疾患の理解（全身疾患と妊娠、感染症、妊娠疾患、流産 他）
5	妊娠期の異常(2)	妊娠中に正常からの逸脱がある対象の看護（高齢妊婦、若年妊婦、肥満・過剰体重増加、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、切迫流・早産 他）
6	分娩期の異常(1)	①分娩の生理の理解 ②正常からの逸脱、疾患の理解（分娩の3要素の異常・胎児機能不全・異常出血他）
7	分娩期の異常(2)	①産科的処置と産科手術を受ける母子への看護 ②分娩時異常出血のある産婦の看護
8	新生児期の異常(1)	新生児の異常と看護(1)（新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児・呼吸障害、デベロップメンタルケア）
9	新生児期の異常(2) 産褥期の異常(1)	①新生児の異常と看護(2)（高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏性出血） ②産褥の生理の理解
10	産褥期の異常(2)	①正常からの逸脱、疾患の理解（子宮復古不全・産褥期の発熱・産褥血栓症・感染症・乳房トラブル・精神障害）②育児困難な母子、家族の支援
11	周産期の異常がある対象の看護を考える(1)	事例検討（グループワーク）
12	周産期の異常がある対象の看護を考える(2)	事例検討（グループ発表）
13	演習：新生児における看護技術 講義のまとめ	①新生児の沐浴 ②身長、体重、頭囲・胸囲の計測 ③だっこ ④おむつ交換 他 ⑤講義のまとめ
14		
15	評価	客観テスト・解説

評価	客観テストによる評価80% 課題レポート20%
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 (医学書院)
参考図書など	適宜紹介

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2026年度
授業科目名	精神看護学概論		担当教員	橋本 貴	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）22年	

授業概要

本科目では、精神看護の実践の基礎となる、心のしくみと働き、心の発達と精神の健康問題、精神の健康問題が人々の生活に及ぼす影響、また精神医療・看護の歴史の変遷、倫理と人権、精神保健福祉に関する法律と制度について学習し、精神看護の基本的な考え方、役割を学ぶ。授業方法は、講義を主として展開する。

到達目標

- 1 心の健康の保持・増進について、また心の健康に影響を及ぼす因子について理解することができる。
- 2 心の構造について理解し、心の成長について理解することができる。
- 2 精神障がい者の処遇と医療、看護の歴史を学び現在の問題点と今後の展望について考えることができる。
- 3 精神保健・医療・福祉の法律や制度を理解する。
- 4 精神看護の対象及び対象に現れる精神症状の特徴を理解する。

回数	単元	内容
1	精神看護とは	精神看護に対するイメージ、対象に対するイメージ、心の健康とは何かということについて現在の自身の考えを表現する。
2	脳と心	心（精神）とは何か。精神と脳の関係について学ぶ
3	心の健康とは①	健康という視点から心の健康とは何か、心が健康であるためには何が必要かを学ぶ
4	心の健康とは②	心の健康に影響を及ぼす因子、心の健康を守るための精神保健について学ぶ
5	心の構造	心の実態について学ぶ。意識・無意識・前意識、自我、超自我、エス
6	精神医療の歴史①	精神医療の成り立ち、精神医療が歩んできた暗黒の歴史について学ぶ
7	精神医療の歴史②	日本の精神医療の成り立ちと暗黒の歴史、どのような過程で制度が変化していったのかを学ぶ
8	精神保健福祉法①	精神医療を取り巻く法律について学ぶ。精神保健福祉法の目的について学ぶ
9	精神保健福祉法②	入院形態、行動制限について学ぶ
10	精神保健福祉法③	患者の人権を守るための仕組みについて学ぶ
11	精神症状① 思考の障害	思考の障害について学ぶ
12	精神症状② 感情の障害、知覚の障害、意欲の障害	感情の障害、知覚の障害、意欲の障害について学ぶ
13	精神症状③ 意識の障害、記憶の障害、知能の障害	意識の障害、記憶の障害、知能の障害について学ぶ
14	精神看護を行う上で必要なもの①	精神看護の土台となるものについて学ぶ（患者-看護師関係）
15	評価	客観テスト・解説

評価	客観テストによる評価100%
教科書	【第6版】 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎（医学書院）
参考図書など	適宜紹介する